

埼玉県機械工学系奨学生レポート 平成 28 年度 1 月 新学期を迎えて

新しい学期が始まりました。ピザ屋に足繁く通い、正月は家の中で過ごしたため、体重がまた増えてしまいました。そのため最近、仲の良いアメリカ人の Justin と週に 3 日、筋トレを行っています。ウェイトリフティングルームはクラブに入っていない人も多く利用しており、バーベルを使ったトレーニングを行う女性も多くみられます。バスケットボールやアメリカンフットボールなど体をぶつけ合うスポーツが強いアメリカだけあって、体を鍛えることに対して日本よりも積極的な方が多いと感じました。バスケットボールと言えば、フィンドレー大学のバスケットボールチームの選手のほとんどがショートヘアだったことに触発され、Justin にお願いして私も丸坊主にしたのですが、自分が思っていた以上に短かったため数日間は常に帽子をかぶっていました。

NBO レセプション

NBO（インターン先の企業「ニッシン・ブレーキ・オハイオ」）の方々への感謝を伝えるパーティーで報告をするために、私たちの仕事及び日常生活に関するプレゼンテーション資料を作りました。パワーポイントを使った発表はアメリカに来て 3 回目です。1 回目は NBO のエンジニアの方々に対して、2 回目は私たちのアドバイザーである川村准教授など面識がある方に対して行いました。しかし今回は、私たちの活動について全く知らない方々や初対面の方も来られるので、特にプロジェクトに関して、どうすれば伝わりやすいかなど考えました。例えば、アルミニウムの膜が固まってできたゴミを会社内では **dross** と呼んでいるのですが、これは一般的な言葉ではありません。このような、会社内でしか伝わらない言葉は極力言い換えました。

発表の後は会食となりました。ただでさえ初対面の方と話すのは緊張しますが、その上英語で話さなければならず、電子辞書を持ち込むわけにも行かなかったので不安でした。

相手が察してくれなければ意味が通じない部分は多かったとは思いますが、話したいエピソードがあると英語がどんどん出てくるようで、隣の席の方とはレゴブロックの話題で盛り上がりました。やはり、よいコミュニケーションのためには、共通の話題があることの方が言語の巧拙以上に重要だと感じました。



フィンドレー大学学長公邸にて（前列左から 3 人目が私）

アニメコンベンション

日本に興味がある学生の多くが日本のアニメに興味があります。アメリカ人の友人との間でも、日本のアニメがよく話題になります。私の知らない作品を彼らが持っていることもあります。彼らと一緒にジブリ作品を見たときは、「英語吹き替え」ではなく「日本語音声・英語字幕」の設定にしました。これは、使用言語（英語）そのものがアニメーションにフィットしないというより、吹き替えた声優の声の質や表現の仕方に違和感があるためです。

つい先日は、日本でも参加したことがなかったアニメイベントに初めて参加しました。マーベル作品などのアメリカ産キャラクターや日本のコミックのキャラクターのコスチュームを身にまとったアニメファンで会場はあふれていました。私の友人にもコスプレの服作りが得意な方がいます。彼女の寮の部屋は作業スペースや多くのコスチュームがあり、まるで店のようです。この日、友人たちはコスプレをしていましたが、コスチュームを作る時間と予算がない私は写真撮影をするのみで、「Can I take a picture」と40人以上に声をかけました。全員快く了承してくれ、「どんなポーズがいい？」などと積極的に対応してくれました。相手の名前がわからなくとも、コスチュームからそれと分かるキャラクターの名前を呼べば気づいてくれるので、初対面にもかかわらず、多くの方が話しやすかったです。



アニメコンベンションの会場

新クラス

新学期となりクラスが分かれ、授業のレベルも一段上がりました。前のクラスで仲の良かった中国人の友人 DongDong とはまた同じクラスになれたのですが、別の大学へ行ってしまった友人もいました。

授業ではパラグラフを書くことが多くなりました。日本の鎖国について書いたときなど、日本国内でならあまりに有名で説明不要な人物や出来事などをすべて説明しなければならず大変でした。今学期からは月・水・金曜日が授業、火・木曜日がインターンシップとなり、前回のように仕事の後に顔にススを付けたまま登校することはなくなりました。前回のセメスターでは、仕事が中途半端になってしまっても途中で切り上げて授業に向かわなければなりませんでしたが。今後は、エンジニアの方々と同じ時間帯で授業の事を考えずに仕事ができます。勉強と仕事、それぞれに集中できる環境になりました。